

2016年度 事業報告書（2016年4月1日～2017年3月31日）

1. 組織運営の強化

今年度は、ラオス並びにマラウイでのプロジェクトの大きな転換期を迎えた。ラオスでは、新活動地域での活動を開始するにあたり、具体的な活動の枠組を策定した。マラウイでは、独立行政法人国際協力機構（JICA）草の根技術協力事業が終了し、新たなプロジェクトの立ち上げに向けた計画策定作業を進めた。

それら新規案件の実施に向けた資金調達に関して、ラオスでは、今年度の味の素「食と健康」国際協力支援プログラム助成金に応募し、提案事業が採択されており、来年度から3年間で770万円の資金援助を受けることになっている。また、マラウイでは、JICA 草の根技術協力事業または外務省 NGO 連携への応募を視野に入れ、次期案件の立ち上げのための現地調査を実施した。来年度に応募する計画である。

資金調達の強化では、公的資金や助成金の獲得に向けた活動に加え、インターネットを活用したクラウドファンディングや、古本、書き損じハガキの寄付の実施を計画した。

2. 資金調達

1) 資金並びに支援の獲得活動

▶ JICA 草の根技術協力事業の継続（約 360 万円）

▶ 民間企業並びに国際協力支援団体からの資金調達  
NGO 福岡ネットワーク助成金（助成額約 20 万円）

味の素社から「食と健康」国際協力支援プログラム助成金（次年度より3年間で770万円）

3. 広報活動

1) イベント参加（能古島国際協力フェスティバル、福岡県地球市民どんたく）

2) 関係省庁、JICA、民間企業への PR 活動（ニュースレターの配布など）

3) マスコミによる広報活動

4) ホームページの充実

5) ニュースレターの発行

6) セミナーの開催

一般市民への啓発活動並びに ISAPH の広報を目的として以下のようにセミナーを実施した。

開催日：2016 年 12 月 4 日(日)

場 所：久留米シティプラザ（福岡県久留米市）

テーマ：国際協力セミナー「開発途上国における母子の栄養改善活動」

特別講演：「マラウイ国の小児保健政策と栄養」

講演者 マラウイ保健省、小児疾患統合管理課長 ンソナ氏

4. 国際協力事業

1) ラオス地域母子保健プロジェクト

新規覚書（MOU）を 2016 年 4 月に締結し、サイブートン郡での母子保健活動を開始した。

① 活動概要

2016 年 5 月より、Growth monitoring、妊産婦健診、健康教育、妊産婦登録、出生児登録などによる村人、特に妊産婦の健康増進のための活動基盤整備を行った。同活動の更なる推進のため、母子の栄養改善を主軸とした活動を推進した。これまでの県・郡保健局との活動に加え、住民を核とした食生活改善推進員を育成し、住民への栄養指導強化を図ることを計画しており、その資金は、味の素社「食と健康」国際協力支援プログラムから助成金を受ける。

② 食料の安定的な確保への支援

サイブートン郡での母子保健活動は、母子の栄養改善の更なる強化を図るため、健康教育だけでなく、食料の安定的な確保の支援活動も計画に含めている。

- コミュニティ菜園、家庭菜園の導入（NPO 団体 JVC などから技術的な支援を受ける）
- 食用昆虫の家庭養殖の導入（食用昆虫科学研究会の協力を受ける）

2) マラウイ国 JICA 草の根技術協力事業及び同プロジェクトのフォローアップ

① 活動概要

2016年5月に終了したJICA草の根技術協力事業による栄養改善プロジェクトでは、栄養改善に必要となる食や衛生に関する行動の変容とともに、下痢の減少といった成果を確認した。これは、同地域における母子の栄養改善へ向けた良い兆候であり、ISAPHでは、引き続き、活動地域において、保健要員（Health Surveillance Assistants/ HSA）及び村のボランティアを動員した栄養改善活動を継続した。

② 新規栄養改善プロジェクトの計画及び助成金申請の準備

- 新規案件作成のための調査実施（マラウイへの職員派遣）
- 現プロジェクトの縮小に向けた活動調整
- 食料の安定確保に向けたコミュニティ菜園設置支援
- 現地保健要員の活動基盤（担当村内における住宅兼保健施設）整備のための調査

5. 災害緊急医療支援

特になし

6. 保健人材育成支援

ISAPHの主要な活動として今年度も積極的に受け入れた。

1) スタディツアー及び実習の受入

東京医科歯科大学医学部（5名）、聖マリア学院大学（3名）、山梨県立大学看護学部（8名）を、ラオスへ受け入れた。

2) インターン受入

マラウイ乳幼児栄養改善プロジェクトにおいて、九州大学歯学部の学生を、2016年8月末から9月下旬の1か月間受け入れた。マラウイ農村部でのISAPHの母子保健活動見学のみならず、住民の虫歯の確認、ムジンバ県病院、国立ムズズ病院や民間の歯科治療の状況の調査も行い、マラウイの歯科衛生分野における現状とその課題について報告を受け、当方にも有益な情報が得られた。

7. 国内事業

沖縄県立病院医師支援活動

今年度も沖縄県立病院への医師派遣支援は、ホームページでの広報を継続している。

以上